

平成24年度 評価計画及び自己評価

(計画・中間・**最終**)

倉橋西中学校区 校番 23 学校名 呉市立倉橋西中学校

a 学校教育目標	知性・情操・体力が個性豊かに調和し、創造性に富み、実践力のある生徒を育成する。	b 経営理念 ミッション・ビジョン	<ミッション>(学校の使命) 「ふるさと倉橋」を愛し、ふるさとから愛される学校づくり <ビジョン>(将来の学校像) 小中一貫教育のもと、学力の定着・向上、社会性の育成、ふるさと学習の推進を図る学校
----------	---	----------------------	---

c 中期経営目標を踏まえた現状(進捗状況)と今年度の重点	(1) 学習に対する積極的な姿勢が育っておらず、学力が十分定着していない。言語活動の充実を図り、特に、「書いて話す」活動を全教科で取り組むとともに、生徒のつまずきの解消と学習への意欲の向上を図る授業づくりのなかで、学力の向上をめざす。 (2) 小中一貫教育を推進しており、「ふるさと学習」のカリキュラム化とそれに基づいた具体的実践を小中学校で実施した。新学習指導要領の完全実施に伴い、「ふるさと学習」の内容のより一層の充実を図るとともに、各教科等での「言語活動の充実」に向け「書く活動」と「話す活動」を手段とし小中学校で研究する。 (3) 生徒の規範意識の醸成及び社会性の育成と自主的活動の活性化が課題である。基本的な生活習慣の定着を図るとともに「ふるさと倉橋」を意識した地域での活動等、生徒の自主的活動に向けた行事の創造を推進する。
------------------------------	---

評価計画(中期経営目標を設定してから 1・2・③年目)						自己評価					
重点	d 中期(3年間)経営目標	e 短期(今年度)経営目標	f 目標達成のための方策(こんなことをして達成します)	g 指標(効果を見とる目安)	h 目標値	10月			2月		
						i 達成値	j 達成度	k 評価	i 達成値	j 達成度	k 評価
***	【学力の定着・向上】基礎・基本の学力が身に付き、自ら学ぶ姿勢をもつ生徒の育成を図る。	ア 「書いて話す」言語活動の研究 イ 子どもの学びのポイントを的確に押さえた授業づくり	ア 教科指導の中で「書いて話す」活動の恒常的な位置づけ ○各教科で「書いて話す」活動を推進し、「手を動かす」学習を習慣化を図る。 ○学校行事等で「自分のことば」として話させる。 イ 授業のポイントが、子どもたちの学びのポイントであるという認識に立ち、小中一貫教育の推進のなかで、児童生徒の学習課題を明確にし、基礎・基本の確実な定着が図れる指導を行う。 ○「ねらい」に基づく授業展開の工夫 ○自主学習に向けてのノート指導による家庭学習の定着	・教員の満足度 ・実施回数【朝会・小中合同行事・江田島合宿・職場体験学習・総合的な学習の時間・文化祭等での挨拶及び発表】 ・教員の満足度【概ねできてきている92%】 ・ノート等の提出率(国・社・数・理・英5教科平均)	90%	91%	100%	A	94%	100%	A
**	③【小中一貫教育】小中一貫教育の研究実践を推進する。	ア 交流授業・合同行事の継続実	ア 小・中学校の児童生徒・教職員の交流を継続する。 ○小中連携のなかでの、合同行事の継続、小中相互の教職員交流の推進 ○中中連携のなかでの、合同行事の実施 ○統合に向けた教育内容及び諸計画の整理と統合諸作業の実施	・合同行事及び教職員交流の実施回数【合同遠足・海浜清掃・オペラ鑑賞・教職員交流7回】 ・合同行事の実施回数【合同遠足・海浜清掃・合同修学旅行】 ・統合作業の達成率【統合会議開催回数 73回】	年間10回	8回	80%	B	10回	100%	A
					年間3回	2回	67%	C	3回	100%	A
					100%	50%	50%	D	90%	90%	B
*	【生活の向上】より良い学校生活を求め、日常生活の向上を心がける生徒の育成を図る。	ア 基本的な生活習慣の定着 イ 生徒の自主的活動の奨励	ア 返事、挨拶、服装、時間、掃除についての粘り強い指導 ○全校朝会を中心に返事・挨拶の指導、各学級や授業における共通指導、掃除の仕方の集中指導、生徒会による点検活動、家庭への協力依頼 ○生徒の部活動への意欲的な参加	・教職員の満足度 ・生徒の部活動に対する満足度	90%	88%	98%	B	85%	94%	B
					80%	89%	100%	A	86%	100%	A

【k:評価】

A: 100≦(目標達成) B: 80≦(ほぼ達成)<100
C: 60≦(もう少し)<80 D: (できていない)<60

平成24年度 結果の分析及び今後の改善策

(中間・最終)

呉市立倉橋西中学校区 校番 23 学校名 呉市立倉橋西中学校

重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(1年間) 経営目標	l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))
***	基礎・基本の学力が身に付き、自ら学ぶ姿勢をもつ生徒の育成を図る。	ア 「書いて話す」言語活動の研究 イ 子どもの学びのポイントを的確に押さえた授業づくり	<p>ア 全教科及び学校行事での「書いて話す」活動の恒常的な位置づけ</p> <p>○「各教科で『書いて話す』活動を推進する。」の教員の満足度は94%であった。これは、年度当初の校内研修での研究テーマの設定とその意義について、教員の意識統一が図られていること、指導主事招聘・全教員参加の授業研究において、授業観察の視点の明確化やそれに沿った協議による授業改善に対する意欲の高揚が考えられる。</p> <p>○「学校行事等で『自分のことは』として話させる。」については、朝会、小中合同行事、宿泊学習、職場体験学習、総合的な学習の時間での挨拶や発表、文化祭のステージ発表や合同修学旅行、保育実習等、現在までに47回実施した。各行事の事前指導で、書いて考えをまとめる取組や言語技術の向上を図った。より一層大きな声で、自信をもち発表できるようになることが目標である。</p> <p>イ 「基礎・基本の確実な定着」が図れる指導の工夫</p> <p>○『「ねらい」に基づく授業展開の工夫」の教員の満足度は92%であった。これは、各教科が、中間評価の反省を生かし、本時の目標に対して、具体的な評価規準(評価の判定基準)を明確し、授業改善を図った結果であると考えられる。</p> <p>○自主学習に向けてのノート指導や家庭学習課題の工夫において、ノート・課題等の5教科(国・社・数・理・英)の平均提出率は87%(中間評価79%)であった。これは、生徒のノート内容の充実を図るために、模範となるノートを紹介する場を各教科が設けたり、家庭学習については、保護者用携帯電話メールや懇談会等で、家庭とのより一層の連携を図るとともに、個に応じた学習課題も考慮したりして、提出率の向上に努めた結果であると考えられる。</p>	<p>○各教科間での日々の授業交流の意欲的な実施や各教科での「書いて話す」活動の効果的な活用による学力の向上の検証までには至らなかった。次年度は、研究推進計画に定期的な校内研修会を位置付け、研究主題に基づいた資料発表等による自己研鑽に努める。</p> <p>○第2学年の立立式、全生徒が発表する閉校記念式等の行事の取組で大きな声で自信をもって発表できるよう指導の充実を図る。また、次年度においても、日々の授業や成就感を味わえる行事を創造し、「自信をもって表現できる生徒」の育成に向けて、事前指導や各教科での指導の充実を図る。</p> <p>○「ねらい」に対して、「概ね満足できる」具体的評価規準(判定基準)が妥当性・信頼性のあるものにするために、次年度も、指導主事招聘の授業研究の意欲的な実施や、管理職の授業観察等での指導・助言が重要である。</p> <p>○提出率は向上したが、各教科ともに、自主学習ノートや家庭学習課題提出率の目標値には至っていない。また、家庭学習の定着にも依然として課題がある。「家庭学習の手引き」の見直しや各教科での指導の徹底、保護者用メールや懇談等を通じた家庭とのより一層の連携を図る必要がある。</p>
**	① 小中一貫教育の研究実践を推進する。	ア 交流授業・合同行事の継続実施	<p>ア 小・中学校の児童生徒・教職員の交流の継続</p> <p>○小中連携での合同行事の継続、小中相互の教職員の交流の推進を図った。合同行事では、合同遠足・海浜清掃・オペラ鑑賞を実施し、児童生徒の豊かな心や自尊感情、コミュニケーション能力の育成を図った。教職員交流では、授業研究への参加、合同研修会等を7回行い、教員の指導力の向上を図った。</p> <p>○中中連携行事においては、合同遠足・海浜清掃・合同修学旅行を実施し、統合を見据えたより良い人間関係づくりに取り組んだ。</p> <p>○統合に向けた教育内容及び諸計画の整理と統合作業の実施では、現在までに73回の統合諸会議を開催し、教育課程の編成、制服や生徒指導規程の見直し、設置備品の調整等、意欲的かつ計画的な取組を進めており、進捗度は90%にまで向上した。</p>	<p>○小学校の道徳授業研究、中学校の英語科の授業研究(スタートカリキュラムの小中連携)への相互教員の参加は有意義であった。次年度は、小中一貫校になるが、9年間を見通した児童生徒の学習意欲・学力の向上、豊かな心の育成に向けて、より一層の授業改善や行事の創造を推進する。</p> <p>○統合後も、児童生徒の社会性の涵養や自尊感情の高揚に向けて、意義ある行事の創造や全学年の学級集団づくりを推進する。</p> <p>○総務部会、施設・備品部会、教育課程部会、児童生徒部会、PTA部会の各代表が取組内容の精査を行い、3月下旬までの綿密な実践計画を立案し、部会員が期限厳守の確実な取組を行っている。</p>
*	生徒指導を充実し、健全な社会性をもつ生徒の育成を図る。	② 基本的な生活習慣の定着 イ 生徒の自主的活動の奨励	<p>ア 返事、挨拶、服装、時間、掃除の粘り強い指導</p> <p>○全校朝会での返事・挨拶の指導、各教科や学級での授業規律の確立、規範意識の醸成に向けて、校内研修会や職員会議で共通理解を図るとともに、職員朝会等でも日々確認しているところであるが、教員の生徒の指導に対する満足度は85%であった。全教職員が基本的な生活習慣や授業規律の確立に向けて意欲的に取り組んでいるが、指導力に差があり、やらせきるまでには至っていない。</p> <p>イ 生徒の部活動への意欲的な参加</p> <p>○生徒の部活動に対する満足度は全学年の平均で86%で目標値を達成しているが、学年によっては、運動部だけの活動に満足せず、文化部の創部を求めている生徒もいる。</p>	<p>○次年度に向けても、全校朝会や各学級で、「返事」「挨拶」「服装」「時間」「掃除」等、基本的な生活習慣の確立がなぜ重要であるのかを生徒に十分理解させるとともに、各項目の生徒の善行に対しては全教職員で評価を行い、自己肯定感・規範意識の高揚を図る。また、生徒会を中心とした取組(各種委員会での呼びかけ・点検)を考えさせ、生徒の自律心の育成を図る。</p> <p>○次年度の統合に向けて、心身の伸長を目的とした部活動の選択は非常に重要である。開校までに、両中学校の実態を考慮し、運動部では何部を存続させ、文化部の創部では、どのような部が可能なかを熟考・決定し、部活動のより一層の活性化を図る。</p>

平成24年度 学校関係者評価及び改善策

(中間・**最終**)

倉橋西中学校区 校番 23 学校名 呉市立倉橋西中学校

評価項目	※評価	理由・意見
目標、指標の設定の適切さ	A	○目標・指標の設定は適切だと思います。 ○各学年の生徒の現状や学力・生活面を見極めたうえで、しっかりと設定がなされています。
目標達成のための方策の適切さ	A	○学習・生活面について、細やかに、また具体的な取組が多岐にわたってなされています。 ○具体的かつ適切に設定されています。天風録の視写、同じ学習プリントの2枚作成、ワークシートの工夫等、学力の定着に向けての細かな工夫が見られます。
自己評価の結果と分析の適切さ	A	○適切な評価・分析がされています。学力においても、体力においても、方策が目に見える成果として表れています。よく分析されていると思います。 ○成果というものの中々表れ難いものですが、子どもたちの落ち着きと表情から豊かな心や学力の定着が窺えます。
今後の改善策(案)の適切さ	A	○詳細かつ具体的に検討されています。成果のあった項目についても、更なる改善案が示されたり、個に応じた対策にまで言及されています。 ○これ以上の負担を先生方にかけていけないと思うほどの取組だと思いますが、子どもたちは日々変化しますので、先生方の取組を今後も期待します。
その他		○学校統合前の大変な時期にもかかわらず、日々改善の努力をされていることに頭が下がる思いです。また、最近、ホームページの運用がタイムリーで充実したものになったと実感します。今後の統合校でも、是非継続していただきたい。また、ホームページ上でも小中一貫としてほしいです。今後、統合により広い学校区になります。各地域の伝統や良い点をうまく融合して、素晴らしい学園にして下さい。 ○4月からの学校統合に向けて着々と準備が進められています。子どもたちは、仲良く、前向きに学校生活を送ってくれることでしょうか。今後も、見守って行きたいと思います。先生方、ご指導を本当にありがとうございました。 ○「宝島くらはし」での発表会で、地域の民謡・踊りを発表してほしかった。倉橋や音戸駅伝で好成績をあげたことは生徒の自信につながると思う。今後も、小規模校でも、文化面・スポーツ面において、より良い部活づくりを行い、活躍を期待します。 ○学校が教育目標を設定するように、家庭では、子どもに将来どういう人材に育てほしいかを親は再認識し、子どもに接したり、子どもが伸びるような工夫をし、子育てをする必要があると思います。

※ 評価は、A(とても適切)、B(概ね適切)、C(あまり適切でない)、D(まったく適切でない)、N(分からない)

学校関係者評価を受けての今後の改善策		○学力や体力の向上に向けて、具体的な取組に対して評価をいただいた。学力面においては、9年間を見通した学力向上のための指導・評価方法の工夫改善、言語活動の充実、朝学習の工夫、第3学年部活動終了後の進路決定を見据えた補習授業の実施等、体力面においては、本校開発のサーキットトレーニングの継続と改善等、今後も取組を推進する。 ○地域・保護者へのホームページや保護者携帯電話用メール等の情報発信において、高い評価をいただいた。閲覧率も大きな伸びを示しているの、今後とも、意欲的な情報発信に努める。 ○部活動の活性化は統合に向けての大きな課題である。開校までに、両中学校の実態を考慮し、運動部では何部を存続させ、文化部の創部では、どのような部が可能なのかを熟考・決定し、部活動のより一層の活性化を図る。
--------------------	--	--